

# 概要版

## もりおか農業・農村振興ビジョン2030 ～農業・農村が輝き 世界とつながる「もりおかの食と農」～

### 基本方針

### 主な指標と目標（現状値→2030年）

【Ⅰ】 農業の持続的な発展

新規就農者数：161人→261人（※累計数） 農用地の利用集積率：43.0%→80.0%

【Ⅱ】 活力ある農村の振興

グリーン・ツーリズム利用者数：29万人→34万人 多面的機能支払交付金事業の組織数：35組織→39組織

【Ⅲ】 食と農がつなぐ笑顔あふれる地域の創造

市民の購買意識・愛着度：59%→70% 農産物販売額500万円以上の生産者：16.5%→25.0%  
農産物販売額3,000万円以上の生産者：1.9%→5.0%

### 策定の背景

・農業者の高齢化や減少、担い手不足の進行

基幹的農業従事者数 4,122人（2015）  
→3,141人（2020）

平均年齢 67.2歳（2015）  
→68.1歳（2020）

・農地面積の減少

経営耕地面積 7,813ha（2015）  
→6,819ha（2020）

・国内食市場の縮小、産地間競争の激化、嗜好の多様化

・国の「食料・農業・農村基本計画」の見直し（2020.3）

### 現状と課題

① 農業者の後継者不足

→担い手不足の解消に向けた取組が必要  
「農業後継者がいない」46.3%  
※2017農家アンケート

② 農村集落の維持困難

→農村集落の地域力強化が必要

総農家数 4,081戸（2015）  
→3,263戸（2020）

③ 食市場の縮小や産地間競争の激化

→強みを生かす農業の展開  
農業産出額 192億7千万円（2018）  
※県内で4位、東北管内で15位

### 重点施策

【Ⅰ】 農業の持続的な発展

1 多様な担い手・人材の育成・確保

- ・新規就農者の育成・確保（相談のプラットフォーム化、段階的就農支援体制の構築、農業女子の参入促進、定年帰農者の支援、親元就農給付金・農業次世代人材投資資金の交付）
- ・認定農業者などの育成・確保（営農状況に応じた助言・支援、農業技術研修会の開催 など）

2 農地集積・集約化の推進

- ・実質化した地域農業マスタープランの活用（各地域主体の話合いの活性化 など）
- ・農業委員会や農地中間管理機構との連携強化
- ・農業生産基盤整備事業（農作業の効率化・省力化のための大区画化の推進 など）

3 競争力と魅力ある農業の確立

- ・国内外への販路拡大（姉妹・友好都市を契機とした輸出促進事業、盛岡広域農畜産物を結集させた取組 など）
- ・スマート農業の加速化（多様なスマート機器の導入支援、デジタル技術の活用推進 など）
- ・ニーズに対応した農産物の生産（りんごの剪定技術継承、もりおか短角牛や黒毛和種等の生産振興 など）

【Ⅱ】 活力ある農村の振興

1 生き生きとした農村の形成

- ・複合経営等多様な農業経営の推進（半農半Xのライフスタイルの支援、中小規模農家支援、産直への支援 など）
- ・移住・定住の促進（農業振興に資する新たな土地利用、新規就農パッケージ型支援、農作業体験宿泊 など）
- ・農業集落の活力の維持・向上（地域おこし協力隊や集落支援員の制度活用、交流人口・関係人口の創出 など）

2 農村の持つ多様な役割の維持・発揮

- ・地域ぐるみによる農地等の保全（多面的機能支払交付金・中山間地域等直接支払交付金事業の活用推進 など）
- ・自然災害や家畜疾病対策、鳥獣被害対策の強化（ジビエ処理加工施設・個体処理の検討、地域ぐるみの対策 など）

【Ⅲ】 食と農がつなぐ笑顔あふれる地域の創造

1 強みを活かした地産地消の推進

- ・「美食王国もりおか」の確立に向けた事業展開（もりおかの食と農バリューアップ推進戦略に基づく事業推進）
- ・食関連事業者による盛岡産農畜産物の利用促進（「盛岡の美味しいもんアンバサダー」を活用した情報発信 など）

2 産業連携等による新たな価値の創造

- ・6次産業化・農観商工連携の推進（取組への補助金交付、人材育成セミナー開催、販路拡大支援、文京区学生と創るアグリイノベーション事業 など）
- ・農福連携の推進（アクティブシニアの農業モデルプラン構築 など）